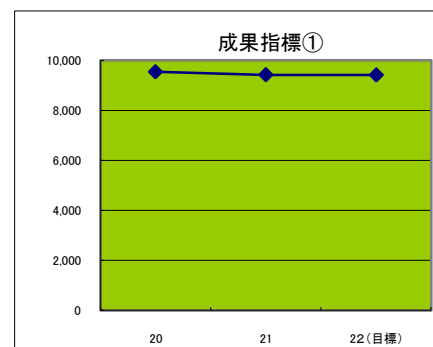
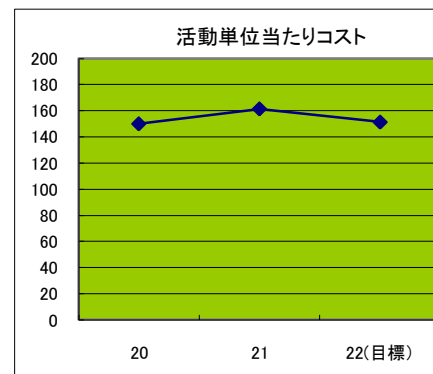


事務事業名		図書館管理運営事業		予算科目	会計	1	一般会計
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	4	魅力ある地域社会を拓く活力あるまち		款	10	教育費
	施策(節)	3	生涯学習		項	5	社会教育費
	施策の方向	(3)	図書館活動の充実		目	9	図書館運営費
関連する計画等				事業	8	図書館総合運営	
作成部署				教育委員会事務局生涯学習室図書館課			
対象(誰を・何を)				連絡先			
市民及び在勤在学者				072 - 950 - 5501 内線			
意図(どういう状態にしたいのか)							
より良い読書環境の整備充実を図る。							
事業の内容							
図書館では、下記のような業務を行っている。 電算システム管理、資料の収集・整理・保存、資料の貸出、返却、配架、予約(リクエスト)、調査相談(レファレンス)、相互貸借、障害者サービス、おはなし会、手づくり会、新着案内他の発行、ビデオ上映会、読書講演会、団体貸出、学校図書館への援助、子ども文庫活動への援助、図書館協議会の開催などを行っている。							
根拠法令等				社会教育法、図書館法			
事業開始時期				終了年度			
☒ 昭和 28 年開始 ☐ 明確にはわからない ☐ 平成 ☐ 市制施行(昭和34年)以前より行っている				平成 年度			
事業開始時からの状況変化				府立のブックステーションとして図書館業務を開始し、現在では6館1ブックステーションで年間約90万冊を貸出しています。			
市民や議会の要望				・古市図書館の早期再開 ・図書館司書正職員の配置増員			
実施手法				☒ 直営 ☐ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助金・助成金 ☐ その他()			
委託先				委託内容			
☐ 市外郭団体委託 名称() ☐ 民間委託 ☐ その他							

区 分		20年度	21年度	22年度
		(実績)	(実績)	(見込み)
事業費【1】 (千円)		22,130	29,823	28,823
人件費【2】 (千円)		112,080	115,428	108,150
職員数	正規職員	5.90 人	5.62 人	5.50 人
	再任用職員	4.10 人	2.70 人	0.00 人
	嘱託職員	21.30 人	24.72 人	24.50 人
	臨時職員	4.50 人	4.60 人	4.50 人
	超過勤務(参考) (時間)	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間
総事業費 (【1】 + 【2】) 【A】 (千円)		134,210	145,251	136,973
財源内訳	国費 (千円)			
	府費 (千円)			
	市債 (千円)			
	その他 (手数料・使用料等) (千円)			
	一般財源 (千円)	134,210	145,251	136,973
活動指標(事業の活動実績)【B】 単位		20年度	21年度	22年度(目標)
① 年間個人貸出冊数	冊	894,517	899,214	905,000
② 年間団体貸出冊数	冊	36,377	41,658	42,000
③				
活動単位当たりコスト (【A】 / 【B】 ①)		150 円	162 円	151 円
市民1人当たりコスト (【A】 / 人口)		1,122 円	1,221 円	1,152 円



成果指標	指標名		単位	指標設定の考え方	平成20年度		平成21年度	平成22年度
	①	市民一人当たりのサービス効果 (式) (購入図書平均単価×貸出冊数) - 図書館費 ÷ 人口	円	市民一人当たり金額に換算してどのくらいのサービスが提供できたか	目標	9,199	9,383	達成率(%)
					実績	9,536	9,421	100.4%
②	貸出サービスの指標 (式) 購入図書平均単価×貸出冊数 ÷ 図書館費 × 100	円	図書館に投入された費用に対してどれくらいのサービスがなされたか	目標	653	783	達成率(%)	785
				実績	785	833	106.4%	

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	図書館法の趣旨にのっとり市が設置し管理運営している

視点	分析のためのチェック点			分析・評価の説明		
	はい	いいえ	該当なし			
妥当性	市民ニーズが高い	☒	☐	☐	図書館サービスの提供により、子どもからお年寄りまで、誰でも気軽に学べる機会が保障されることにより、豊かな人間形成の創造に寄与する。 多くの自治体で導入されている、インターネットによる予約システムの早期開始が望まれる。	
	市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない	☒	☐	☐		
	社会情勢の変化に対応している	☐	☒	☐		
	他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☐	☒	☐		
	国・府の事業と重複していない	☒	☐	☐		
	事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい	☒	☐	☐		
	緊急性が認められる	☐	☐	☒		
効率性	単位コストが適切である(経年、他市比較など)	☒	☐	☐	他市などと比較しても、少人数で長時間のサービスを行っており、効率的な運営がなされている。	
	受益者負担の割合は適当である	☐	☐	☒		
	人員を削減する余地がない	☒	☐	☐		
	事業費を削減する余地がない	☒	☐	☐		
	簡略化できる方法や手段がない	☒	☐	☐		
	市の他事業と重複していない	☒	☐	☐		
	民間活力(民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど)の活用について検討の余地がない	☒	☐	☐		
有効性	上位の施策(目的)が明確である	☒	☐	☐	子どもから高齢の方まで、多くの市民などが気軽に利用できる施設であり、貸出においても、冊数・人数ともに増加しており、有効性が高い。	
	上位の施策(目的)への貢献度が高い事業である	☒	☐	☐		
	成果を向上させる余地がない	☒	☐	☐		
	市民の視点にたってサービスが提供されている	☒	☐	☐		
協働性	事業の企画、立案に市民が参加している	☒	☐	☐	障害者サービスやステーションライブラリ、お話会など、ボランティアと協働して進めている。また、諮問機関である図書館協議会を開催することで、事業の実施に意見をいただいている。	
	事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている	☒	☐	☐		
	事業の実施について積極的に市民の意見を反映している	☒	☐	☐		
	事業の実施に市民の参加、協力が得られている	☒	☐	☐		
達成度	成果指標の目標値は適正である	☒	☐	☐	個人貸出においては、前年度並みであったが団体貸出は20%増と、利用指標は増加している。	
	成果指標の実績値は目標値以上である	☒	☐	☐		
	成果指標は前年度より向上している	☒	☐	☐		

担当 部局 評価	総合評価	
	☐ 拡大・充実 ☒ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	
	評価の理由	
	当市の図書館サービス水準は、貸出や学校図書館サービスにおいては、一定水準以上のサービスを低コストで提供できている。 今後に向けて(取組方針、具体的な改善改革案など)	
	生涯学習の拠点として、組織体制の確立とサービスの充実強化・職員の資質向上を図り、IT化への対応を推進していく。	
行 革 本 部 評 価	総合評価	
	☐ 拡大・充実 ☐ 現状維持 ☒ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	評価理由・意見 財政健全化計画に基づき、職員体制の見直しや外部委託の導入などによる管理運営の効率化を図る。このほか、広告料等の収入確保策を検討する。